

温かい真心ありがとうございます

本会に寄附金をいただきました。温かい真心に感謝申し上げます。(平成26年10月現在)

平成26年7月18日 株式会社河北新報社さまより
社会福祉事業のために…………… 1,003,848円

株式会社河北新報社さまより
交通海難遺児のために…………… 6,328円

平成26年8月5日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 57,223円

平成26年9月5日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 49,013円

平成26年10月6日 株式会社ブリッジさまより
社会福祉事業のために…………… 59,766円

東日本大震災に係る復興支援及び福祉施策等に対する要望書の回答を頂きました

平成26年7月15日、宮城県保健福祉部社会福祉課に提出した、国及び宮城県に対する要望書の回答が届きました。

届いた回答は、宮城県社会福祉協議会ホームページでご覧になれます。

宮城いきいき学園 平成27年4月 入学生募集

- ・対象=県内居住の概ね60歳以上の方
- ・場所=①仙南校②大崎校③石巻校④気仙沼・本吉校⑤登米・栗原校
- ・募集人員=各校40人
- ・学習日=年間22回(2学年制)
- ・内容=生きがいと健康づくりをめざし、地域活動の指導者として必要な内容を身につけます。
- ・募集期間=平成26年12月1日(月)~平成27年2月27日(金)必着
- ・入学金=5,000円 ・受講料=年間20,000円
- ・申込書は、各市町村の福祉担当課や生涯学習担当課及び本会ホームページからも入手できます。
- ・通学可能であれば、どちらの学校に申し込んでも結構です。
- ・HP[http://www.miyagi-sfk.net/]
- ・申込みお問い合わせ
宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課 ☎022-225-8477

第22回 宮城シニア美術展開催!!

宮城県社会福祉協議会では、県内居住の60歳以上のアマチュアの方を対象に美術展を開催致します。日本画、洋画、書、写真、工芸の5部門に分かれ、数多くの作品が応募されました。

なお、この美術展の最優秀及び優秀作品は、平成27年度開催の「第28回全国健康福祉祭やまぐち大会」(ねんりんピックおいでませ!山口2015)美術展部門に宮城県代表として出展します。ご来場をお待ちしております。

- 展示会場 宮城県美術館 県民ギャラリー(入場料 無料)
- 展示期間 平成26年12月18日(木)~平成26年12月21日(日)・4日間
- 表彰式 平成26年12月21日(日)午後2時30分より本会場で開催
- 問い合わせ 宮城県社会福祉協議会 いきがい健康課 担当:針生
TEL: 022-223-1171

オススメ製品のご紹介

県内の障害者就労支援事業所で作るオススメの製品を紹介します。

■ 仙台メンタルヘルスサービス

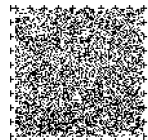
① アクリルタワシ(動物シリーズ他)

手を入れて使えるタイプの表情豊かなアクリルタワシです。サイズは約10cm×10cm程、アクリル毛糸を使用していますので台所の流し台やお風呂など様々な場所を優しくキレイに洗え、またインテリアとしても場を彩ります。母の日の贈り物などにもオススメです。各区役所での移動販売時、当事業所でも購入して頂けます。

② レース編みハンカチ

レース糸でふちを彩った綿ハンカチで、さらしのような手触りになっており、サイズは30cm×30cm程です。季節感を取り入れて様々な色合いの商品をご用意しております。並べるとカラフルでとても素敵で、プレゼントとしてもオススメです。各区役所での移動販売時、当事業所でも購入して頂けます。

NPO法人みやぎセルフ協働受注センターでは、働く障害者の方々に応援しています!
URL <http://www.miyagi-selp.org>
<http://www.facebook.com/miyagiselp>



仙台メンタルヘルスサービス

〒981-0913 宮城県仙台市青葉区昭和町2-25HCビル1・5F
TEL/022-343-0718もしくは022-717-6577 FAX/022-343-0728もしくは022-717-6577
✉ smhsswm@globe.ocn.ne.jp

復興 被災地のいま

地域福祉と防災教育

松島町社会福祉協議会



松島中学校正門前の大型防災マップ

東日本大震災から3年8か月が経ちました。松島町でも海岸の観光地をはじめ沿岸地区が津波に襲われ被害を受けました。災害ボランティアセンターを立ち上げ支援を行いました。観光地として風評被害を避けるため、被害状況の発信、ボランティア募集の広報は極力抑えました。ボランティアの集まりに不安がありました。ボランティアの半数以上が町内の住民ボランティアで中学生の参加も多数あり、地域の繋がりの深さを感じました。

住民間のつながり

震災を契機として、小地域福祉活動を推進する必要があるとの結論に達し、地域福祉推進協議会を町内の各地域に立ち上げました。対象は12行政区とその中の小地域で、平成23年度に3地域でスタートしましたが、年々増加し、今年度は10地域での活動となりました。近年の社会情勢、地域環境を考えると普段からの地域住民の繋がりがこそが、災害時のみならず近年社会問題化している様々な問題、制度の狭間で苦しんでいる方々の助けになるものとの思いから、季節の行事や安全確認、防災・減災事業等を行っております。根拠地区では「向こう三軒両隣」の6軒ごとのグループをつくり、普段からコミュニケーションを図るとともに、災害時には玄関先の黄色い旗で安否を周囲に知らせる取り組みを行っています。また、磯崎地区では今年6月に東北福祉大学(以下、福祉大)の協力を得て防災訓練を実施し、参加者は大学生の出

防災教育

松島中学校では佐藤吉晴校長の指揮のもと、災害時にリーダー性を発揮し、行動できる人材作りを目的に「まつしま防災学」を行っています。社会福祉協議会でも「災害時に活躍するのは中学生」との観点から、町、県共同募金会、地域住民を巻き込み、昨年は全校生徒一人一人が個人防災マニュアルを作成しました。これらを集約し、避難所や中学生の目から見た危険箇所、震災時の津波や過去の水害の浸水域も盛り込んで大型の防災マップを作製し、学校正門の壁面に設置しています。東北本線車内からも見えますので、ぜひご覧ください。また、福祉大の協力を得て防災教育推進事業を実施しています。平成25年度は福祉大の学生の指導を受け、車いす避難リレー、災害時必需品借り物競争、減災クイズ、エコノミークラス症候群予防体操など体験型のプログラムに取り組みしました。今年



災害時必需品借り物競争をする松島中学校生

す減災クイズやエコノミークラス症候群予防体操等に真剣に取り組んでいました。介護保険制度の見直しにより、今後地域での介護予防、高齢者支援の必要性が高くなることから、地域福祉推進協議会の体制整備に努めていきたいと思えます。

度は「中学生と地域」をキーワードに、福祉大より指導を受けた1年生が町内3つの小学校に出向き、防災教育を行いました。小学生に教えることで中学生の減災への理解が更に深まったと思えます。また、3年生も避難所設置訓練として、テント・土のうの設置訓練を行いました。いずれも体験型の訓練で、「いざとなった時に動ける、出来る」を目標としています。

松島町は高齢化率が県内で6番目に高く、今後ますます少子高齢化が進むことから、中学生を含めた地域の繋がりを強化し、更なる地域福祉の充実を図ることが社協の使命であるとの認識に立ち、今後も努力してまいります。

(寄稿 相澤)

